

状況劇場「蛇姫様」上映会——単独性と反復または記録についてⅡ

われわれはバックミラーごしに現在を見ている。われわれは未来にむかって、後ろ向きに行進している。[We look at the present through a rear-view mirror. We march backwards into the future.]

マーシャル・マクルーハン、クエンティン・フィオーレ『メディアはマッサージである：影響の目録』門林岳史訳、河出書房新社、2015年、75～76頁。

「鏡です。（と、パチンコ屋のそれを持ち）何かの本で読みました。蛇の化け物、すなわち、ドラゴンを退治するためには鏡を持ってゆかなければならないと。何故ならば、その顔をマトモに見ることが出来ないからです。」

唐十郎「蛇姫様」『唐十郎全作品集 第六巻 戯曲VI』冬樹社、1979年、47頁。

* 一部オリジナルのテープにおいて記録されていない部分があり、乱れもありますことをご了承ください。

「蛇姫様」1977年6月17日 東京・青山墓地下在日米軍キャンプ前（VIC撮影 | 記録時間：2時間30分）



■ 蛇姫様

青緑に光る蛇の鱗のようなあざのあるてんかん持ちのあけびは、上京した矢先に、死んだ母親シノの日記をスられてしまい、日記をスり返すために駆け出しのスリ師となった。日記をスった犯人小林と出会ったあけびは、肩のあざを見た小林に「蛇姫様」と呼ばれて気を良くし、母に聞かされた「白菊谷」のおとぎ話を共有したことで、2人は強く結びつく。

しかし、白菊谷の空想はシノの壮絶な現実に由来するものであった。シノは朝鮮戦争時の死体運搬船「白菊丸」で日本にきた密航者であり、あけびは密航者の男たちにシノが犯されたときにできた子であったのだ。あけびは自身の凄惨な出自を否定し、降霊術で此岸に戻ったシノに蛇姫をやめて日本に帰化しよう言い聞かされるも、ただのてんかん女になることを恐れ、蛇姫としての生に縋り付く。過酷な出自と帰化問題、アイデンティティをめぐる葛藤するあけびは、楽しい空想と厳しい現実に折り合いをつけながら、自分自身が何者であり、どこへ帰るべきかを定めようともがいていく。

小林があけびに投げかけた「一体全体僕らがどこへ帰れるというのでしょうか」という疑問は、帰れる場所などなく、持つ必要もないことを反語的に意味している。しかし、結末であけびが蛇姫様としてのアイデンティティを確立して抛り所を得たように、帰れる場所がなくとも自らの意思でそれを探し、掴み取ることが重要だというメッセージを物語全体から読み取ることができる。副題の奈蛇はおそらくアンドレ・ブルトンの『ナジャ』に由来する。（高原純介）

■ VIC (ビデオインフォメーションセンター)

1972年、VICは国際基督教大学（ICU）の演劇サークルであるICU小劇場を母胎として活動を始めた。手塚一郎が作成したガリ版刷りの設立主旨書には、その設立動機と活動の目的が簡潔に語られている。ICUにおいて、学生同士の交流が少ないという問題があること。そして、その問題を解決するために、ビデオを用いて「映像・音響を含めてより全体的に、かつ正確迅速な情報交換—究極にはコミュニケーション—を実現する」（[VIDEO-INFORMATION CENTE[R] 設立主旨書、1972年）ことである。こうして成立したVICは、以後大学サークルの範囲を超えて、様々な活動を展開することになるが、その活動は、「ハイ&ローを問わない網羅的なイベントの記録」「ビデオ・テクノロジーを用いたコミュニケーションの実験」「ビデオ関連イベントの企画」「国内外の芸術グループとのコミュニケーション」「ビデオの普及活動」の大きく5つに分類することができる。

具体的には、ICUの学生食堂における放送から始まり、「ソフトミュージアム」構想、ダンス・演劇・展覧会・シンポジウム・ママさんバレー・コンサートなど多様なイベントの網羅的なビデオ記録、三鷹のアパートでのCATV実験である《Cable Paravision Ten》などを行った。その中心にあったのは、コミュニケーションとは何か、いかにそれは可能なかという問いである。VICの状況劇場の記録ビデオはおおよそ20件の演目に及んでいる。

時間割

12:45 | 開場

13:00-15:30 | 「蛇姫様」の上映

15:40-16:00 | 手塚一郎×久保仁志によるトークセッション

16:10-17:30 | 新井静×久保井研×手塚一郎×久保仁志によるディスカッション

2026年1月17日（土）13—17時30分

VICアンダーグラウンド劇場

東京都武蔵野市吉祥寺本町1-33-10丸二ビル地下1階

主催：ビデオインフォメーションセンター、慶應義塾大学アート・センター

協力：令和7年度 文化庁メディア芸術アーカイブ推進支援事業「1970年代以降のパフォーマンスおよび

展覧会のビデオ記録のデジタル化・レコード化 III」

<http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/kuaccinematheque4-2026-0117/>

Tel：03-5427-1621



